

令和5年度の欠席状況について（5月12日調査）

1 調査の目的

1年を通して欠席日数の多い児童・生徒を把握し、不登校の未然防止に向けて個別の具体的な対応を検討する。

	調査機関	調査対象
1回目	4/6 からゴールデンウィーク明けまで	5日以上の欠席者
2回目	4/6 から夏季休業日明けのまで	10日以上の欠席者
3回目	4/6 から冬季休業日明けのまで	20日以上の欠席者

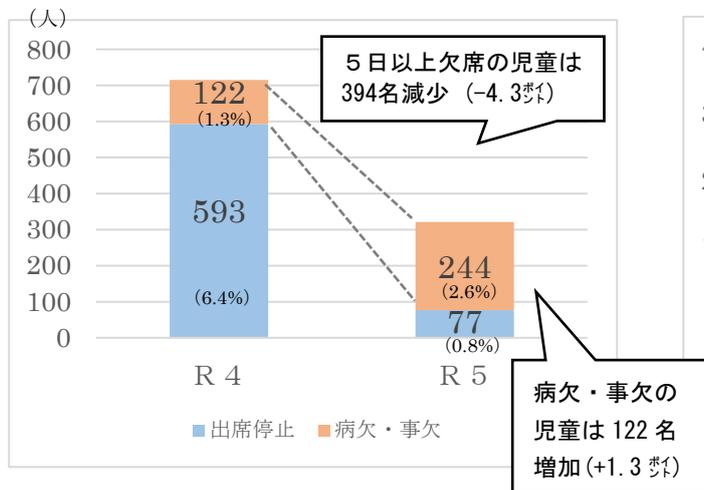
2 調査期間

令和5年4月6日から5月12日まで（1回目）

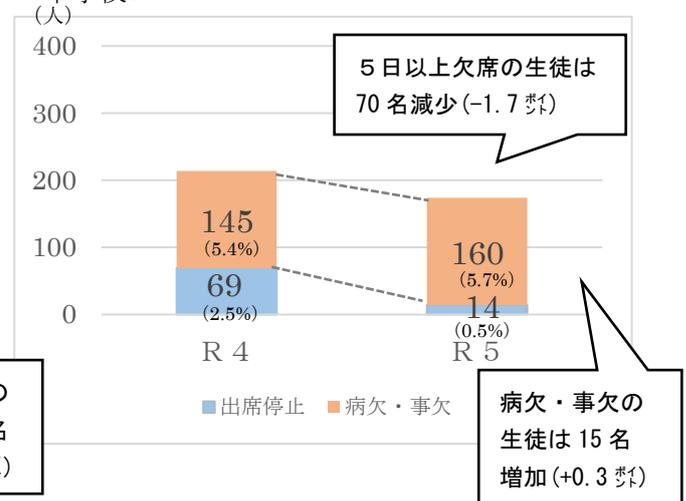
3 結果

出席すべき日数25日間のうち、5日以上欠席した児童・生徒の人数

<小学校>



<中学校>



4 まとめ

- ・長期欠席や登校渋りの児童・生徒の増加傾向に依然として歯止めがかかっていない。
- ・学校を欠席することに対する保護者・児童生徒の意識が変化している。
(例) 軽度の体調不良でも欠席/家族旅行等の日程を優先/学校を欠席しているが塾には通う
- ・学校を休まないことを善とする価値観は大きく変化してきている。

5 対応

<未然防止に向けて>

- ・学校からの聞き取り時において、一人一人に寄り添った声掛けや支援、安心して学べる学級づくりができるよう指導・助言をする。
- ・学校訪問において、誰にとっても分かりやすく楽しい授業を展開できるよう、授業力の向上に向けた指導・助言をする。

<初期対応に向けて>

- ・若手教員育成研修において、「不登校対策取組連携推進【デジタル版】」や、不登校児童・生徒への対応事例を紹介し、関係機関と連携した対応の方法を周知する。
- ・SSW活用事業や不登校対策会議において、学校と情報共有をし、今後の対応や役割分担について指導・助言をする。